



藤土木発 第 69 号
平成19年 5月 8日

国土交通省道路局長 様

藤岡市長 新井 利明



中期的計画の作成に当たっての意見 (回答)

本市は、神流川と烏川の合流部から南西部に広がる平坦部に既成市街地が形成され、更に市城南西部は赤久縄山、御荷鉾山等の1,000mを超える山岳地とこれらの山すそを流れる鮎川沿いの日野地区、また、平成18年1月1日の合併により山岳地を挟む形で、神流川上流部沿いに発展してきた鬼石地区とで市域を構成している。

道路状況は、市北東部に関越自動車道と上信越自動車道が横断し、藤岡IC及び藤岡JCTを有し、わが国中央部の広域高速ネットワークの結節点となっており、更に、北関東自動車道の全線開通により、さらなる交通の要衝としての発展が予想される。

このような状況を踏まえ、道路整備上の問題としては、既成市街地を中心とする都市計画道路の整備状況が指定済み23路線、延長約57kmに対し、整備済み延長約16kmと低位にあり、高速ネットワークと連携した都市計画道路の再編と幹線道路の整備が喫緊の問題となっている。

また、中山間部においては幹線道路自身と道路ネットワークが脆弱であることから、近年の異常気象や台風による集中豪雨時には通行規制による区間が多発し、孤立を余儀なくする地区が発生しており、地域の高次医療施設へのアクセスや買い物、通勤通学に大きな支障となっている。

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1) 安全・安心の確保

中山間部の幹線道路と道路ネットワークの脆弱さは、今後の少子高齢化や市域の均衡ある発展の大きな阻害要因となっており、緊急な対応が望まれている。

また、市街地部の道路網・道路構造の未整備による交通事故対策・バリアフリー化の対応が急がれている。

2) 地域の自立と競争力強化

広域高速ネットワークの整備により、地域の発展が予想されるなか、それと歩調を合わせた、都市計画道路の再編と地域幹線道路の整備が強く望まれている。

また、合併に伴う市域全体の一体感の醸成と一体的な発展のための道路ネットワーク整備が強く求められている。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

1) 事業効果の早期発現

事業の選択と集中を徹底し、効果の早期発現を図ることが重要と考える。

そのための事業優先度の判定基準の制定、事業推進のための土地収用制度の適切な活用等が必要である。

2) コスト縮減と効果検証

財源の有効活用を図る上で、既存施設の有効活用を含めたコスト縮減の推進と、併せて、住民に対する効果検証の説明責任遂行がその後の効率的執行に大きな役割を担うことになると思う。

3. その他、道路政策や道路の整備管理全般に関する意見

1) 道路財源の確保

前述したとおり、本市における道路整備の必要性、重要性、緊急性を踏まえ解決し、充足していくためには、多大の事業費が必要とされており、今後とも道路整備に必要な財源の確保は重要な課題となっている。

そのため、真に必要な道路を着実に整備するための道路特定財源については、道路整備の財源として確実に確保するとともに、地方への配分割合を高めることを強く求めたい。